

せる滿洲事變は、國際的にも國內にも大なる危機を胎んだ。同問題は進展して二月には滿洲國成立し、これと前後して上海事變起り、物情騒然たる有様であつた。五月に至つて上海停戦協定成り、九月には我國は滿洲國を正式承認したのであるが、來るべき國際聯盟理事會及總會の結果は、日本及世界の重大なる關心事である。而して乍ら、むしろ問題の根本は今後の滿洲國經營に在り、茲より日本經濟上幾多の矛盾と困憊の發生が充分豫想せらるゝ。

大森内閣の成立と金再禁止

昭和六年十二月十一日、若槻内閣倒壊し、大森内閣直ちに成立、十三日金輸出の再禁止を行つた。その結果、豫期の如く物價騰貴し、一時資本家を利したのであつたが、國內の購買力之に作はず、加ふるに日支事變による國際關係の悪化は再び物價下落の傾向を辿り、恐慌は一層深刻化した。失業者も漸増し、これに關する正確なる統計を缺いて居るのであるが、一般的に百五十萬を超える推定が行はれたのである。貸銀も引續き下落の一途を辿り、日銀統計に依れば、昭和六年三月實收貸銀指數九四、二たりのものが、昭和七年一月には八七・六となり、更に同年七月には八六・二となつた。されは労働争議も激増し、昭和七年の下期には一、〇七九件、八四・三四四人、昭和七年の上期には九四四件、四八・三六六人の参加人員を示した。その原因の大部分は、労働者の防衛的性質を有するものであつた。然して益々その發生が中小工場に移行しつゝあることは注目すべきところである。

フアツシヨの不安據頭

大森内閣は、組閣後議會を解散し、二月廿日總選舉を行ひ、與黨政友會は三百三名の絶対多數を獲得し、議會に於ける未曾有の安定的地位に立つたのである。然るに、選舉戦中に、前大藏大臣井上準之助氏暗殺され、續いて三月五日、三井財團の巨頭團琢磨氏暗殺され、端なくも組織的暗殺團の計畫發覺して一世を驚かしたが、五月十五日、現役軍人交むる一團の兇徒に依つて、大森總理大臣は白晝其官邸に射殺された。尙同日は、各所に擧擧が投せられたのであつた。斯くて大森内閣は倒壊し、齋藤協力内閣が成立した。

農村窮迫と臨時匡救議會

右の如き暗殺の横行は、農村の貧窮を背景とするフアツシヨの據頭であるとされ、茲に農村窮迫問題は俄然として注目されるに至り、第六十二議會を前後して、農村請願運動は殺到し、モラトリアム斷行等々の非常時の對策が盛んに論議された結果、特に、時局匡救對策の爲の臨時議會を召集することとなつた。之、我議會制度創始以來の出来事である。言ふ迄もなく農村の窮迫は今日に始つた事ではない。日本資本主義發達の犠牲として搾取され來つたものであるが、世界恐慌の影響を蒙つて一層激化した。即ち農産物の激落、借金の加重、失業者の歸農、過剩人口等の壓迫を受けた。都市労働階級も、この農村の窮迫を對岸の火災視することは出来なかつた。これ、工場労働者の多數は農村の出稼人たる性質を有し、農村の窮迫は無限に低廉なる労働を供給し、工場労働者の収入減は直ちに農村の窮迫を加へるからである。

インフレーションと物價騰貴

時局匡救臨時議會は、八月廿日召集され、九月四日閉會されたが、この議會を通過せる匡救豫算は、一億七千六百萬圓地方負擔經費を合すれば二億六千三百萬圓に上る。主として土木事業其他の事業費に充當されるものである。政府の言ふところに依れば、今後二ヶ年に支出するものを加へて六億圓に達する匡救經費を計上して居るとの事である。

斯くの如き財政々策の擴張に伴ひ、インフレーションが當然豫期され、これに國際關係の悪化が加はり、圓爲替は激落した。即ち本一月は三十七弗豪に、七月には二十七弗豪に、八月には二十二弗豪となつた。この結果、内地物價の騰貴を促し、棉花、棉糸、砂糖、製粉、人絹、生絲、繭等の重要商品は、數割の暴騰となつた。斯くて各事業會社の採算は頗る良化し、株價は上昇した。物價騰貴は、貿易關係商品に止まらず、生活必需品に及び、小賣物價にも明かに夫れが認められる。然るに、就職率は稍々良化したるも、賃銀は却つて今尙下落の傾向に在り、労働階級の生活苦は加重するであらう。